



城山目的に攻撃す手に迫り賊軍も前後左右の大軍を武勇を震ひて西郷桐野四方の固崩れを見え遺憾も今の術策を果敢の命や最期を逐べと諸將自ら列敷戦ひ四角八面を荒廻り遂に討死なりとあり

既西郷桐野二月月中旬より熊本へ操出川尻と本管を構へて以来屢々官軍の抗をうり半年来各所の戦ひ回陸軍大将の名義をわたりて代金然

推新前より報國の志一あつく忠勤をつとめ其功

大ありも大義をあらわし

賊名と得て城山の露とささるる

実を惜むべきものとあり

村田新八

本若くはし陸

ひとをさすや



鹿兒島へ討入砲撃と掠奪し猶弁天堂場を備へ在る大砲四門その外の銃器を以て夜に入て倍々賊勢盛ん市街に兵火熾々として天を焦しさす暗夜も白晝の如く飛丸雨より

益々賊兵の勢威に乘り縣廢ちりび小田私学校うまひ城山の要地も根探とを兼ねて官軍

築きうる堅壘にうく發砲一時勢ひとろし其後官軍米倉を蕩りたる戦ひに貴島隊の長貴島清の乱軍の内陣没なり又

中津隊の長さ

増田宋太郎捕縛となり賊勢少衰し追入港の官軍の東伏見宮とともめ河村

二好その他の將校各軍謀策を決定し九月廿四日

併陸海陸同道を死闘

桐野利秋

西郷隆盛 再産見島 隆盛 西郷 再産見島 隆盛 西郷 再産見島



別府新助

西郷桐野以下の賊へ延岡香城の後の日向の高千穂の山間を退縮せし密策を以て

八月十八日江之麓山を突出し官軍の

圍をも突三田井の

出道々の分置と

あつて同國飯野小林と經て大隅の國

横川吉田辺へ討て出

官軍を破りしもの

池上四郎

勢威猛克の荒る

如く遠く九月一午前

西郷隆盛

從僕重助



梅堂 周以圖

明治七年 熊本山王





新

正

徳

池上四郎

勢威猛虎の荒る
如く遠小九月一日午前

官軍を破りしもの

西郷隆盛

西郷桐野以下の賊へ
延岡落城の後日向の
高千穂の山間へ退縮せ
一が密に策と決

八月十八日江之瀧山
と突出し官軍の
田と突三田井の
出道々の分署と
あそひ同國飯野小林
と經て大隅の國
横川吉田辺へ
討て出

從僕重助



鹿兒島 西郷 隆盛 最期 式 戰

鹿兒島へ討入彈藥と
 掠奪し猶年天臺場ゆ
 備へ在る大砲四門その外の銃器
 らをひ夜ふ入て倍々賊勢盛ん
 市街ハ兵火焰々ゆるして天と
 焦しさちかき暗夜も
 白晝の如く飛丸雨より
 益し一賊兵の勢威に衆ト
 縣廳ちりび小田私学校
 うむひ城山の要地占
 根拠となり兼て官軍
 築きし堅壘にゆく發砲あり
 一時勢ひとるひ一其後官軍
 米倉小籠りたると戦ひるるに
 貴島隊の長貴島清ハ乱軍の
 内陣没ちり又
 中津隊の長さる
 増田宋太郎捕縛となり賊勢少
 衰へる追々入港の官軍ハ
 東伏見宮とちりめ河村
 二好その他の將校各軍議
 策畧と決定し九月廿四日
 拏曉海陸間道と死闘

桐野利秋

東伏見少將

別府新助





城山目的に攻撃すに迫剽悍
 賊軍も前後左右の大軍に武勇を
 震ひし西郷桐野四方の固崩るを見て
 遺憾も今術策を果さぬを最期と
 逐べしと諸将自ら烈敷戦ひ四角八面不
 荒廻り遂に討死せり
 既小西郷の過し二月中旬より熊本へ
 操出し川尻を本営に構へし
 以来屢々官軍に抗するも半年
 年余各所の戦ひに陸軍大将
 の名義をもちつて然
 維新前より報國の志
 あつて忠勤をつとめ其功
 莫大なりも大義を成しあり
 賊名を得て城山の露とささるる
 實に惜むべきものあり

本營より西郷
 本將ありしを
 ありとせむ

村田新八

ひとを疾くしよあやまき新辺の
 さきの尾まればぬる神也
 南海



梅堂
 國政圖

明治十年 辰谷川丁廿四番地
 十月三日 画工 竹内榮久
 御 届 新設町二番地
 出版人 山本平吉

